

■ 平成25年度 女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業

最優秀賞

個人名	小西 泰子	活動開始時期	平成元年
部門	起業活動	構成員数	—
市町村名	岩見沢市		

1 活動の経過

平成元年に規格外品でも充分美味しい事を消費者に理解してもらおうと無人直売所「ふる里ふれあい店」を開設。地域の青年や女性農業者の出荷物も取り扱う。

11年には、土・日の有人販売を始め、野菜の漬物製造許可を取得し、加工施設を設置。更に、14年からは、販売担当のパートを雇用し、土・日曜日以外も営業開始。

15年に「ふれあいファーム」に登録し、収穫体験やグループホームの高齢者の受け入れを開始。

16年には、農閑期に直売の顧客や飲食店等の異業種と生産者との交流を図るため、「ふる里ふれあい店交流会」を開催。

19年に初級園芸福祉士を取得し、園芸療法農場として地域の福祉施設の入所者による農作業を受け入れ、栽培指導を行うようになる。

23年、地域活性化にむけた組織として「豊正FAM協議会」が発足。直売、加工、交流活動の取組を推進する「ふれあい室」の室長に就任し、地域ぐるみでの視察研修会や学習会を展開。

同年、顧客や異業種に地域の農業を知ってもらうため、「ふる里ふれあい店」主催で農村の小道を歩くフットパスイベント「ピクニック交流会」を開始。24年からは「豊正FAM協議会」の活動として地域の取組に位置づけて開催している。

また、野菜ソムリエ畑ツアーの開催やJAの空き店舗を活用した交流拠点づくりの検討会への参画等多方面で活動している。



<ふる里ふれあい店全景>



<地域の加工品等のPR>

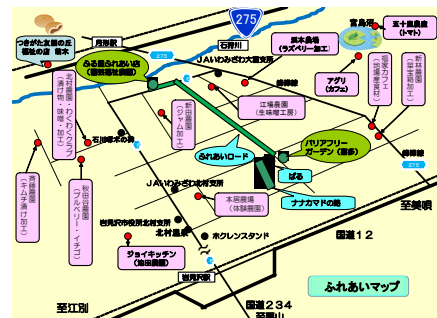
2 活動の概要

(1) ふる里ふれあい店の直売活動

- ・地域の生産者約50名の地場産野菜、農産加工品を販売。
- ・体験農園として約150品種の野菜を展示。

(2) 交流活動

- ・高齢者施設や知的障害者福祉施設との交流を実施。
- ・地域をつなぐ「ふれあいマップ」を作成。
- ・レストランのシェフを招いて現地視察会を開催。
- ・地域につなげ、「豊正FAM協議会」と連携して交流イベントを開催。



<ふれあいマップ>

(3) 食育活動

- ・園児・小学生親子を対象に食育を指導。

(4) 女性活動への参画

- ・空知管内女性農業者ネットワークの代表を努め、活動の中心的な役割を果たしている。



<体験農園での食育活動>

3 活動の成果

直売活動は、年々売上げが増加し、現在800万円/年となっており、生産者の生産意欲の向上につながり、加工品の新規開発（味噌・麴・三升漬け等）の取り組みに発展している。

異業種や顧客との交流により、市内の地産地消レストランが定期的に野菜の買い付けにくるようになり、イベントに参加した加工業者と契約栽培が始まった。

地域参加型のイベントとしてメディアに取り上げられ、地域農業をPRする機会となった。

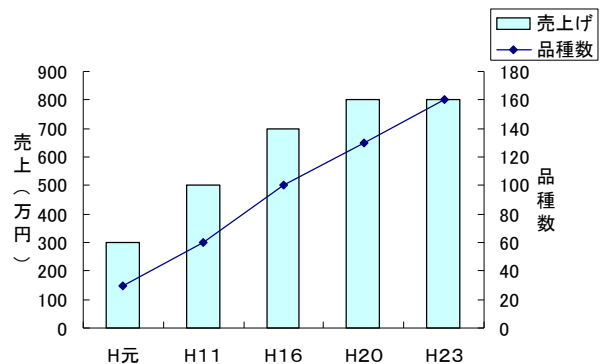
4 関係機関の支援

(1) 市町村、JA

- ・農産物消費拡大推進協議会助成金の活用支援
- ・イベント等の開催協力
- ・PR活動支援

(2) 普及センター

- ・栽培技術支援
- ・販売促進活動支援
- ・交流活動の企画・運営支援等



<直売活動の売上げ推移>

5 今後の活動方向

今後は地域の交流活動の拠点となる施設へ移転し、個人経営の直売所から協議会組織運営の直売所として活動を継続し、若い世代の参加推進を図る。

直売所とともに地場農産物のPRを目的としたカフェ事業を展開したいと考えている。

6 講評

長年にわたり、精力的かつ多彩な内容で、創意工夫に満ちた活動を展開しており、とくに初級園芸福祉士を取得しての園芸療法農場としての取組が特徴的である。

個人での取組から、高齢者施設等との交流やふれあいマップの作成、食農教育など、地域の取組へと展開しており、継続性も含め、その取り組みは高く評価できる。

農家以外の方々との活動にも目配りされ、連携している姿は、これからの農業のあり方を考えさせられる。地域農業のPRにもつながっており活動の広がりが期待される。



<ピクニック交流会でのフットパス>



<野菜ソムリエ畑ツアー>